

### (3) 植物標本をつくる

【目的】 採集したサンプルを記録として保存する。

【準備】 サンプル袋・はさみ・胴乱・新聞紙・ラベル・パウチフィルム・軍手

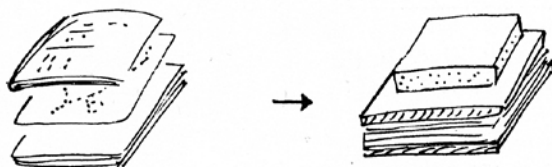
【方法】 野外で

- ① 花のついている完全な個体を根際からはさみで切り取りサンプル袋に入れ胴乱に収納する
- ② 採集した地点の環境（日当たり・土質（腐食質か砂質などか）・湿り気・斜面か平坦地か・高木の様子など）をフィールドノートに記録する。  
\* 同じ種類の場合は1個体にとどめること。



室内で

- ① 採集した個体を新聞紙の上にひろげる。
- ② 花や葉の特徴から種類を決め（同定という）ラベルに書く。（植物図鑑を利用）
- ③ 新聞紙を折りたたみ、更に標本と次の標本との間に新聞紙1日分をはさめる。
- ④ 上から重石を載せ乾燥させる。
- ⑤ はじめのうちは1日ずつ間の新聞紙を1冊ずつ新しい物と交換する。
- ⑥ 十分に乾燥したらパウチフィルムにはさめシーラーにかけ圧着させる。



## (参考) 空知川河川敷の植生調査

2003年度に、3年生物Ⅱの授業で行なった空知川5条橋下右岸河川敷の植生調査を紹介する。

- 【方法】
- ①方形区を約20箇所設定する。
  - ②方形枠を真上から眺め、それぞれの種が地面を覆っている範囲を記録用紙に描く。
  - ③記録した各植物の草丈を測定し記録する。
  - ④各地点の各植物の被度合計、草丈の合計からそれぞれ相対値を割り出し、その平均からと優占度をだす。

- 【結果】 優占度
- 1位：ナガハグサ
  - 2位：シナガワハギ
  - 3位：シロツメクサ
  - 4位：アカツメクサ
  - 5位：エソノギシギシ

以下、アカツメクサ・オオアワガエリ・セイヨウタンポポ・タンポポモドキ・クサヨシ・セイタカアワダチソウ・ムラサキウマゴヤシ・クサフジ・ハラオオハコ・オオヨモギ・アキタブキ・ヒメムカシヨモギ・ヒメジョオン・ヒレハリソウ・アレチマツヨイグサ・ピロードモウズイカ・トグチシャ・セイヨウノコギリソウ・ノラニンジン・ウツボグサ・イヌタデなどがみられた。



【考察】(辻 卓哉君のレポートから)

- まずは外来種の割合が、全22種の中で17種を占め、実に77%を占めている結果となった。しかも優占度が高いものに外来種が多く、非常に外来種の勢力が強い地域であった。
- 次に何科が最も優勢か調べると、トップはキク科植物で8種あり、タンポポのように種が風で飛んでくるものが多い。次点はマメ科植物で、この植物は根粒菌を根に持つため荒地など土地がやせていても育つ。シナガワハギ、シロツメクサなどポピュラーな植物も多く分布域では最も広い。3番目はイネ科植物で4種、とくにナガハグサはのり面からひろがったようだ。
- やや暗いところではオオヨモギが多く、やや湿ったところには在来種のクサフジが見られた。



シナガワハギ

(参考) なまこ山の春の植物開花フェノロジーと優占度(おもなもの)

種名	4月			5月			6月			7月			優占度 (3段階)
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
フクジュソウ													C
アキタブキ													A
セイヨウタンポポ													A
ヒメイチゲ													B
ニリンソウ													B
ヒトリシズカ													C
エゾエンゴサク													B
オクエゾサイシン													C
エゾキケマン													C
コンロンソウ													B
クサノオウ													B
ヤマタネツケバナ													C
エンレイソウ													B
ミヤマエンレイソウ													B
タチツボスミレ													A
ツボスミレ													B
ヤブニンジン													B
ムラサキツメクサ													B
オオアマドコロ													C
ズダヤクシュ													C
ホウチャクソウ													C
マイヅルソウ													B
ユキザサ													B
クルマバソウ													B
クルマバツクバネソウ													B
ササバギンラン													C
ノビネチドリ													C

優占度

- A: どこにでも普通に見られるもの  
 B: あちこちに散見されるもの  
 C: 局所的に見られるもの